

水陸両用バックホウ

【 水中バックホウ用水陸両用ユニットの紹介 】

水中バックホウ用水陸両用エンジンユニットは、水中バックホウが構造的に浅海部や河川域の水中作業が困難であった作業区域を施工できる様に開発された装置です。

水陸両用水中バックホウ(以降、水陸両用バックホウ)は、エンジンユニットを動力源として陸上から最大-2.8mまでの水深を稼働範囲としています。

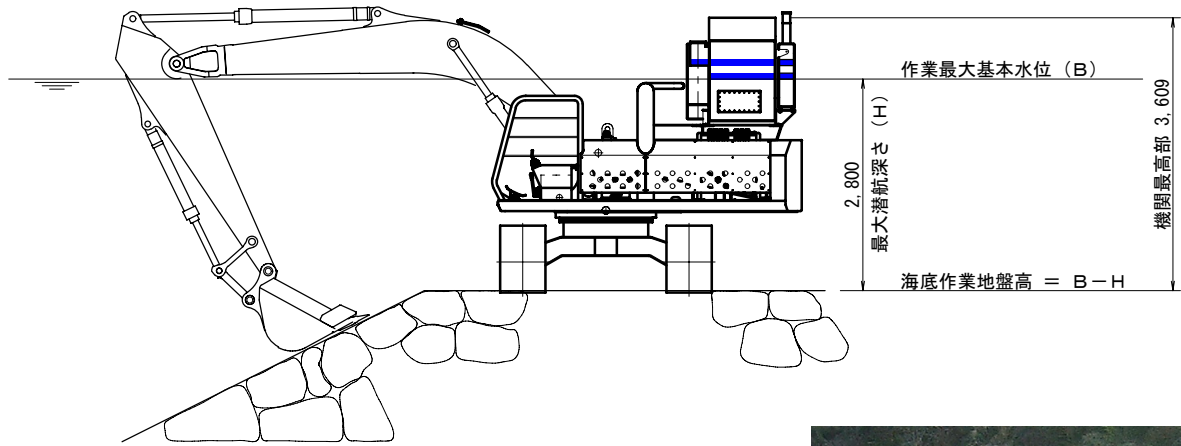
【 水陸両用バックホウの作業水深 】

水陸両用バックホウを用いて水中作業を行う場合、施工される海域の最大潮位を確認して下図の様に作業最大水位 (WD) を考慮し計画を立てて下さい。

〔 例 〕

水陸両用バックホウは、陸上から最大-2.8mまでの水深を稼働範囲としています。下図に示す作業最高基本水位 (B) (=潮位)を確認して現地盤高さを検討して下さい。

$$\begin{aligned} \text{当日の作業時間帯最大潮位} &: \text{DL} + 2.00\text{m} \\ \text{B}(2.00\text{m}) - \text{H}(2.80\text{m}) &= \text{DL} - 0.8\text{m} \\ \text{作業現地盤高さ} &= \text{DL} - 0.8\text{m} \end{aligned}$$



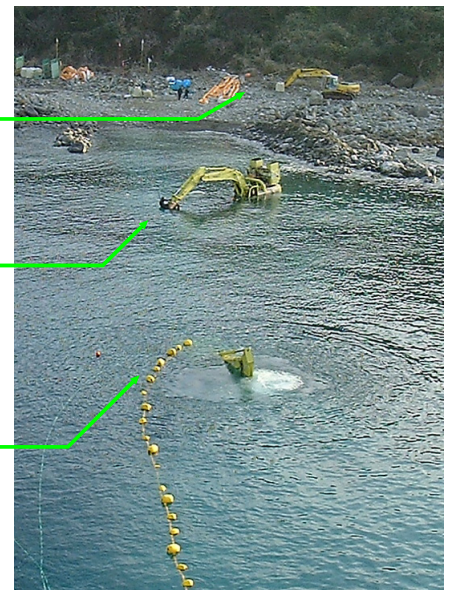
【 水陸両用バックホウの能力及び仕様 】

エンジン型式	いすゞ BB-6BG1T
定格出力	103 kW / 1,950 min ⁻¹
排気量	6,496 mL
油圧ポンプ型式	可変容量2連ピストン+1ギヤポンプ
最大使用圧力	34.3 MPa
作動油タンク容量	200L
燃料、タンク容量	300L (85%時)
ユニット単体重量	3,500 kg
本体搭載後重量	23,000 kg

陸上バックホウ

水陸両用バックホウ
陸上~-2.8m

水中バックホウ
-1.5m~50.0m



【 水中バックホウ ⇄ 水陸両用バックホウの切替 】

水中バックホウへエンジンユニットを搭載して(ボルト固定)油圧ホース5本を接続した後、切替バルブを数箇所切替で完了します。

脱着作業は、ラフタークレーンにてエンジンユニットを吊る為必要としています。

作業時間は、半日以内で完了します。

